

資料-4
平成22年度第3回
北陸地方整備局
事業評価監視委員会

河川事業の再評価資料

〔姫川総合水系環境整備事業〕

平成22年11月

北陸地方整備局

目 次

1. 流域の概要	1
2. 事業の概要	2
(1) 姫川総合水系環境整備事業	
(2) 事業を取り巻く状況	
(3) 課題	
(4) 事業計画	
(5) 事業の経過と進捗	
(6) 整備内容	
3. 事業の効果	10
(1) 事業の投資効果	
(2) 具体的な事業の効果	
(3) 残事業と進捗の見込み	
4. コストの削減案	11
5. 対応方針(原案)	11
参考資料[事業の投資効果]	13

1. 流域の概要

姫川は、その源を長野県北安曇郡白馬村の佐野坂 丘陵（標高約 800m）に発し、白馬盆地で平川、松川等を合わせた後、山間部を北流しながら、中谷川、浦川等を合わせ新潟県に入る。その後、大所川や小滝川、根知川等を合わせ平野部に入り、糸魚川市において日本海に注ぐ、幹川流路延長 60km、流域面積 722km² の一級河川である。

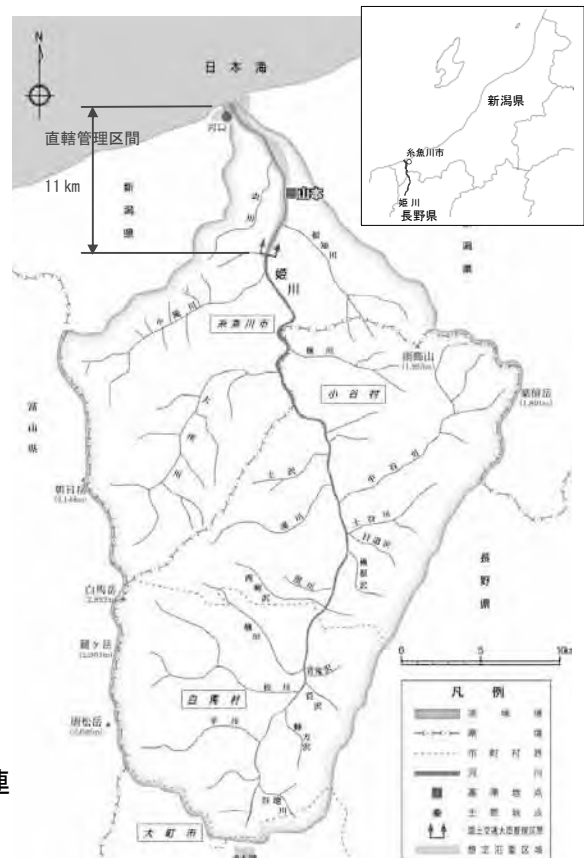
姫川流域は、長野、新潟両県にまたがり 2 市 2 村からなり、下流部の平野部には、新潟県糸魚川・西頸城地方の主要都市である糸魚川市を有している。流域の土地利用は、山地が約 94%、水田・畑地が約 5%、宅地等が 1% となっている。

沿川及び氾濫域には、JR 北陸本線、JR 大糸線、北陸自動車道、国道 8 号、国道 148 号等の基幹交通施設に加え、北陸新幹線が整備中であり、交通の要衝ともなっている。

一方、流域の約 3 割が中部山岳国立公園、上信越高原国立公園等の自然公園に指定され、名水百選に選ばれた姫川源流の清冽な湧水等の優れた自然環境がみられるほか、国の天然記念物に指定された小滝川硬玉産地（ヒスイ峡）もあり、豊かな自然環境に恵まれているとともに、姫川の急流河川を利用した発電の利用等、様々な水利用が行われている。

流域の地形は、上中流部で 3,000m 級の山岳が連なる飛騨山脈（北アルプス）と小谷山地戸隠・雨飾山群に囲まれた典型的な羽状流域が形成され、

急流支川が多数みられることから扇状地も数多く発達し、下流部で狭い平地が広がっている。



姫川流域図

流域面積: 722km²
 幹川流路延長: 60km
 直轄管理区間: 河口より上流 11.0km
 流域内人口: 約 1 万 8 千人
 想定氾濫区域面積: 約 9km²
 想定氾濫区域人口: 約 8 千人
 想定氾濫区域内資産額: 約 1,300 億円
 流域内市町村(新潟県)糸魚川市
 (長野県)大町市、白馬村、小谷村



姫川源流 (H17. 6 撮影)



河口部より上流を望む (H19. 12 撮影)

2. 事業の概要

(1) 姫川総合水系環境整備事業

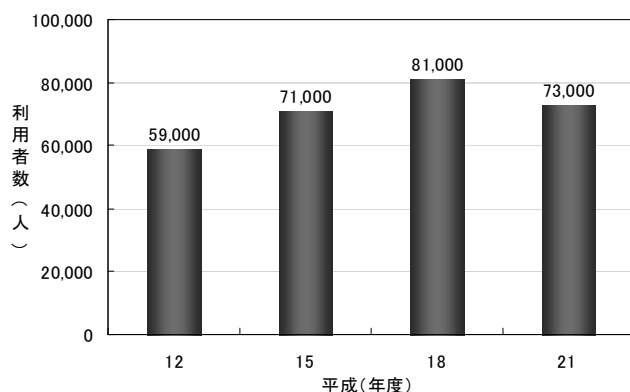
姫川総合水系環境整備事業は、寺島地区において平成 19 年度から事業に着手し、平成 20 年度まで間、糸魚川市の運動広場拡張等と連携のもと、利用推進事業として基盤整備を実施。

事業実施の間に日本ジオパークの決定、寺島地区かわまちづくり計画の検討を進め、かわまちづくり計画の具体化と平成 21 年 8 月の世界ジオパーク認定を契機に、寺島地区において計画を拡大し、糸魚川市との連携のもと、人々の交流拡大や観光・地域の活性化に資する姫川の良好な河川空間を活用した水辺環境整備を平成 23 年度より行う。

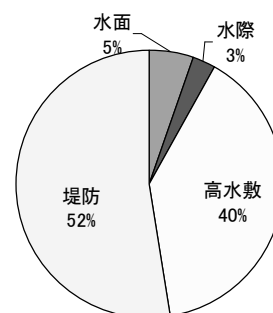
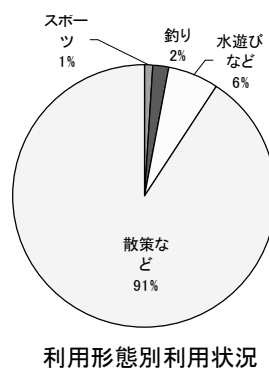
(2) 事業を取り巻く状況

① 姫川の利用状況

- 近年、姫川直轄管理区間における河川利用者数は、「平成 21 年度河川空間利用実態調査報告書」結果によると、年間推計利用者は約 7 万 3 千人と平成 18 年度に比べ 8 千人の減少(約 10%減)となっているが、概ね 6 万人から 8 万人の利用者がいる。
- 寺島地区には桜づつみが整備されており、開花時期には多くの花見客で賑わうなど、地域の川として広く市民に親しまれている。
- 高水敷には市民運動広場が整備されており、野球やサッカー等の運動やレクリエーション・散策の場として利用されている。
- 姫川の良好な水辺空間は、近隣小学校等の自然体験学習の場としての利用がなされている。



姫川直轄管理区間の年間利用者数の推移



利用場所別利用状況

出典：平成 21 年度河川空間利用実態調査報告書



寺島桜づつみ



小学生の自然体験学習



市民運動公園の利用状況

② 糸魚川市における関連計画

- ・ 平成 18 年 11 月に策定された糸魚川市総合計画において、河川・海岸の親水性の向上と豊かな水辺空間の形成の推進が示されている。
- ・ 平成 19 年 8 月策定の糸魚川市都市計画マスタープランにおいて、姫川は「水と緑の骨格軸」に位置づけられ、広大な河川空間の保全及び利活用を図る方針が定められている。
- ・ 平成 20 年 5 月策定の糸魚川ジオパーク構想において、姫川はジオサイトに位置づけられている。本構想に基づく取り組み等により、糸魚川市は平成 21 年 8 月に日本初の「世界ジオパーク」に認定された。

※ジオサイト：大地の歴史を伝える場所、岩石・鉱物・化石などの地質遺産を保存・活用する場所や人間と大地の関わりを示す遺産や場所





いといがわ しずおかこうぞうせん
6. 糸魚川-静岡構造線と塩の道(北部)



こたきがわ
9. 小滝川ヒスイ峡



ひめかわけいこく
13. 姫川溪谷



みやま
16. 美山公園・博物館(フォッサマグナミュージアム)

③ 糸魚川市の観光動向

- ・ 糸魚川市の観光客入込数については、平成 13 年度は年間 298 万人であったが、その後、緩やかな減少傾向が続き、平成 19 年度には 200 万人を割り込んだ。
- ・ 糸魚川市は、2014 年の北陸新幹線の開業を見据え、交流人口の拡大による地域活性化を図るため、「糸魚川ジオパーク」という世界的なブランドを最大限に生かした観光振興への取り組みに着手している。
- ・ 糸魚川市は、平成 20 年 10 月の日本ジオパークの認定を経て、平成 21 年 8 月には日本初となる世界ジオパークの認定を受けた。日本ジオパークの認定以降、糸魚川ジオパークの情報が把握できる博物館であるフォッサマグナミュージアムの入館者数は増加に転じており、世界ジオパークの認定により、今後更なる増加が期待されている。

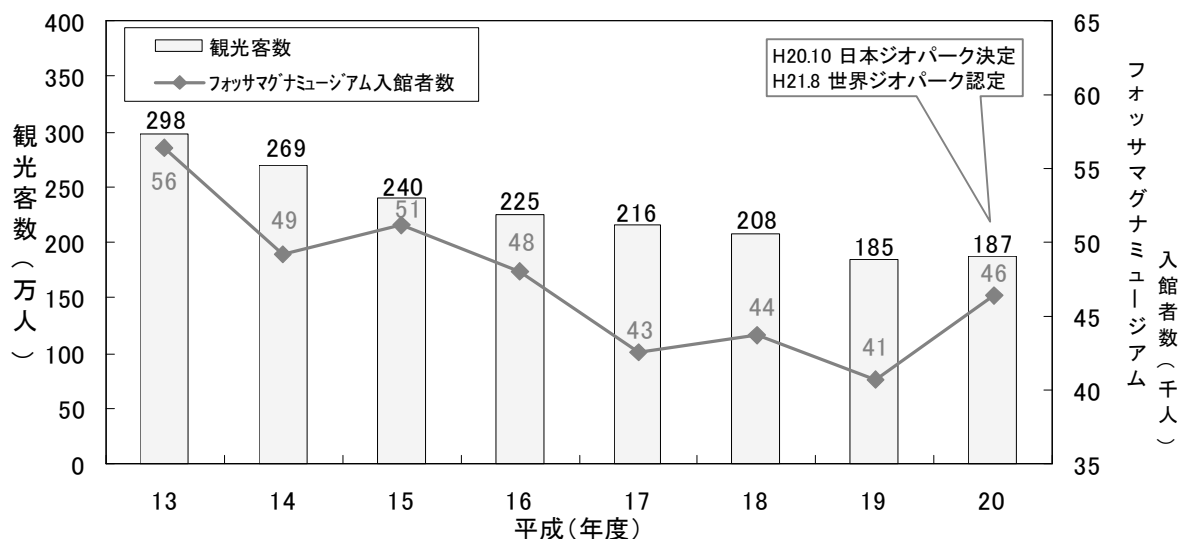


図 観光客数・フォッサマグナミュージアム入館者数の推移

(交流人口拡大プラン：H21.11 糸魚川市・糸魚川ジオパーク協議会より)

④ 姫川における市民の活動

市民活動団体「姫川を愛でる会」は、小学生等を対象として川遊び等の様々な体験学習活動を企画・運営しており、姫川を舞台とした各種イベントに毎年大勢の市民が参加をしている。



姫川を愛でる会の活動状況写真

⑤ 糸魚川市による「かわまちづくり計画」

糸魚川市では姫川寺島地区において、地域住民の憩いの場となる良好な水辺空間を創出するとともに、姫川周辺のジオサイト等の観光資源との有機的な連携による交流人口の拡大を目指し策定した「寺島地区かわまちづくり計画」が、平成 22 年 9 月に「かわまちづくり支援制度」に登録された。

(3) 課題

- ・ 姫川の寺島地区では、糸魚川市の中心市街地に隣接し、日頃から散策やレクリエーション・憩いの場として利用されており、利用者は年々増加している状況にあることから、高水敷へのアプローチ性の向上や利用しやすい水辺空間の整備が望まれている。
- ・ 糸魚川市の観光客数が減少する中、姫川の寺島地区は市民や観光客等の交流拠点として、地域活性化や観光振興に資するジオパークの取り組みと連携した水辺空間の整備が求められている。
- ・ 近年では平成 7 年 7 月洪水による被害が最も大きかったが、洪水に関する広報・啓発の場として水辺空間を活かすことが求められている。

(4) 事業計画

項目	内 容		
目的	当該地区は、糸魚川市街地に隣接するとともに、近接して運動広場や公園・緑地が配置され、市民等の憩いの場として親しまれている。さらに、平成 21 年度に糸魚川ジオパークが日本初の「世界ジオパーク」に指定されたことを受け、ジオパークの拠点として市内外の人々の交流の場となることが期待されている。 本事業は、「糸魚川ジオパーク」に関わる整備を推進するための既設施設と連携した寺島地区の水辺空間を整備し、地域活性化や観光振興に貢献するものである。		
期間	H19～H24 年度（糸魚川市 H21～H25 年度）		
対象区間	姫川（寺島地区）		
関係機関	糸魚川市		
施策内容	主 体	内 容	事業費
	国土交通省	護岸工、堤防強化盛土、管理用通路等	4.1 億円
	糸 魚 川 市	桜植栽、情報板、芝生広場、石の標本展示	0.3 億円
	合 計		4.4 億円

※金額については、百万円以下を四捨五入

(5) 事業の経緯と進捗

糸魚川市から「寺島地区^{てらじま}かわまちづくり計画」が申請され、平成 22 年 9 月に登録されたところであり、本事業は、地域が主体となった積極的な取り組みである「寺島地区^{てらじま}かわまちづくり計画」に対し、国として糸魚川市との連携のもと積極的に支援すべく実施する事業である。

表 姫川総合水系環境整備事業

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
寺島地区水辺整備	■	■	■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■	■	■

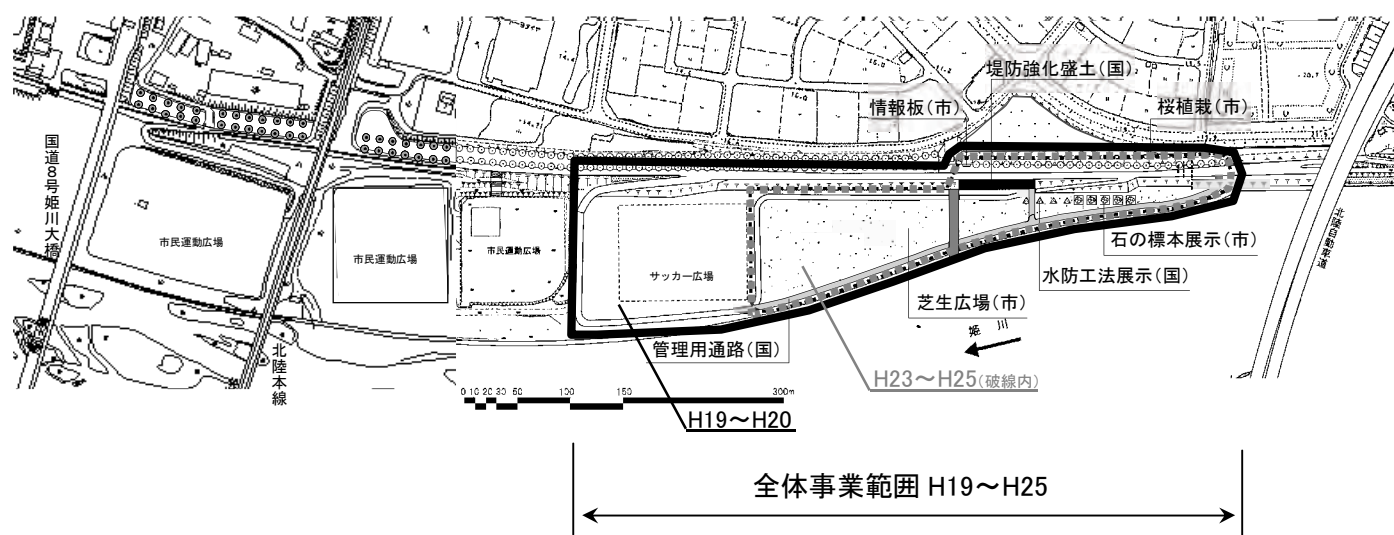
▲
再評価

	国土交通省	糸魚川市	全体
全体事業費	4.1 億円	0.3 億円	4.4 億円
事業期間	H19～H24	H21～H25	H19～H25
進捗額 (H22 年度末)	3.5 億円	0.1 億円	3.6 億円
進捗率 (H22 年度末)	約 85%	約 38%	約 82%

※金額については、百万円以下を四捨五入

(6) 整備内容

- ・ 糸魚川市と連携して「寺島地区^{てらしま}かわまちづくり計画」に基づき、学習や交流、憩いの場として良好な水辺空間の整備を図る。
- ・ 国土交通省は、堤防強化盛土や管理用通路等の基盤整備を中心に実施し、糸魚川市は芝生広場や情報板、市民運動広場や川沿いの公園等の整備を実施する。



今後の整備内容 (H23~H25)

寺島地区水辺整備(計画)

国土交通省の整備内容

- 堤防強化盛土(勾配の緩やかな堤防)
- 河川敷の管理用通路
- 水防工法の展示

糸魚川市の整備内容

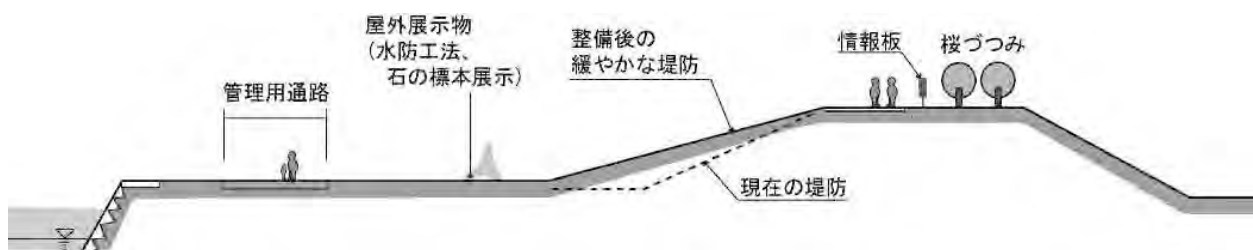
- 桜つつみ(植樹)
- 情報板
- 芝生広場
- 石の標本等の展示



事業計画地の現状写真(H21.12 撮影)



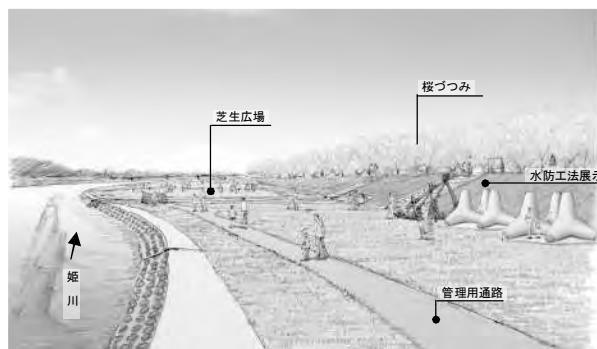
近隣のジオサイトと連携した広域的なネットワーク形成



整備イメージ図



整備イメージ(上流側を望む)



整備イメージ(下流側を望む)

3. 事業の効果

(1) 事業の投資効果

	金 額	摘 要
総費用(C)	5.0 億円	現在価値化した値
建設費	4.9 億円	現在価値化した値
維持管理費	0.1 億円	現在価値化した値
総便益(B)	7.9 億円	現在価値化した値
費用対便益比(B/C)	1.6	
純現在価値比(B-C)	3.0 億円	

※金額については百万円以下四捨五入

※総費用及び総便益は、評価基準における価値に現在価値化して積み上げを行っている。

(2) 具体的な事業効果

① 姫川の治水やジオパークを学ぶ場の提供

「姫川を愛でる会」や「ジオパーク市民の会」等の市民団体と連携し、水防工法の展示を通して姫川の自然災害や治水を学ぶとともに、石の標本展示を通して糸魚川ジオパークについて学ぶなどなど、住民との協働による教育・学習の場としての利活用が期待される。



ジオパーク講座



子どもたちの自然体験学習



大学生の姫川現地調査

② 地域の健康増進の場の提供

現在、日常的には多くの市民に利用されているが、今後はさらに利用できる水辺空間が拡大することから、散策、ウォーキング、ジョギング、リハビリ等の健康増進の場としての利活用が期待される。



保育園児のかわあそびの様子



春季の姫川利用状況



少年野球大会の様子

③ 治水上の機能向上

背後地に糸魚川市の中心部をかかえる当該箇所、低水護岸・堤防強化盛土を整備することにより、治水安全度の向上が図られるとともに、管理用通路の整備により、日常及び洪水時の河川巡視又は水防活動の適確な実施が図られる。

(3) 残事業と進捗の見込み

主 体	内 容	目標年度
国土交通省	堤防強化盛土、管理用通路、水防工法展示	平成 24 年度
糸魚川市	石の標本展示、情報板、桜植栽、芝生広場	平成 25 年度

- ・ 残事業は、国土交通省において堤防強化盛土、管理用通路等の基盤整備を、共同事業者である糸魚川市において石の標本展示や情報板、桜植栽、芝生広場を整備する予定である。
- ・ 残事業については、事業進捗に伴う課題等がなく予定どおり実施できるものと考えている。

4. コスト縮減案

共同事業者である糸魚川市と連携を図り、姫川で発生する土砂を盛土材として有効活用するとともに、異形ブロックの再利用、堤防法面植生に種子吹付け工などにより実施し建設コストの縮減に努める。

また、桜の植栽は市民参加による植栽作業を行うことで地域連携を図りつつ、コスト縮減に努める。

さらに、「姫川を愛でる会」や「ジオパーク市民の会」等の市民団体等や自治会と協働して日常的な施設管理や美化清掃を行うことにより、維持管理コストの縮減に努める。



姫川クリーン作戦

5. 対応方針（原案）

【事業継続】

姫川総合水系環境整備事業は、「^{てらじま}寺島地区かわまちづくり計画」に基づき、糸魚川市による公園整備等と一体で整備を行うことで、地域住民の健康増進の場ともなる良好な水辺空間を創出するとともに、「糸魚川ジオパーク」のジオサイト等の観光資源と有機的に結ばれ、交流人口の拡大に資するものであり、地元自治体等の期待が非常に大きい事業である。

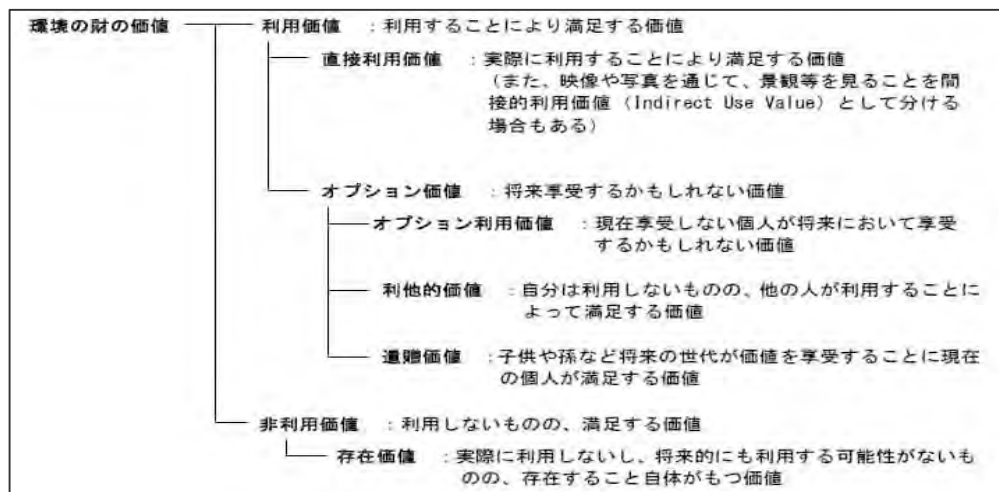
参 考 資 料

[事業の投資効果]

費用便益比分析

【河川環境整備事業の便益】

- ・環境整備の便益は、環境の財としてとらえ、この財の価値の変化がもたらす個人または家計（世帯）の効用の変化分を貨幣換算したものととらえられる
- ・便益をもたらす環境の価値を「環境財の価値」といい、環境財の価値は、一般的に「利用価値」「非利用価値」に大別される
- ・利用価値とは、環境を利用することによって便益をもたらすものであり、非利用価値とは、直接にその環境を利用しない者にも便益をもたらすもので、それが存在すること自体に価値があるとされるものである



出典：河川に係る環境整備の経済評価の手引き【本編】

【分析手法の選定】

・「河川に係る環境整備の経済評価の手引き（H22.3国土交通省河川局河川環境課）」では、以下の3手法の中から事業の特性に応じて選定することとなっており、今回は「CVM法」による便益計測を実施する

【CVM法選定理由】

- ・以下の3手法の内、代替法は市場データを設定する必要があり、適切な設定が難しい
- ・CVMでは利用価値と非利用価値をあわせて総合的な便益の把握が可能である
- ・CVMは適用実績が多く、被験者は直感的にわかりやすい

表 3.2 環境整備の便益を計測する代表的手法

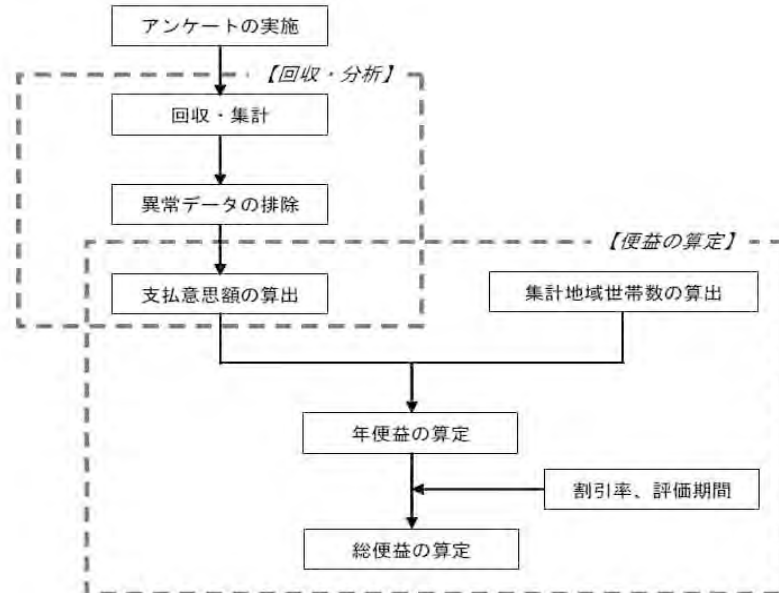
手法	概要	特徴	課題
CVM (仮想的市場 評価法)	・アンケート等を用いて事業効果に対する住民等の支払意思額を把握し、これをもって便益を計測。	・事業がもたらす便益を一括計測することが可能。 ・計測対象に関して制約が少ない。	・質問方法やサンプル特性によってバイアスが生じる。
TCM (旅行費用法)	・対象施設等を訪れる人が支出する交通費や費やす時間の機会費用を求め、これをもって便益を計測。	・基本的に客観データを用いる方法で恣意性が少ない。	・複数の目的地を有する旅行者や長期滞在者の扱いが困難。 ・データの入手が困難な場合がある。 ・非利用価値は評価困難。
代替法	・評価対象とする事業と同様な便益をもたらす他の市場財で代替する場合に必要な費用で当該事業のもたらす便益を計測。	・直感的に理解しやすい。 ・データ収集が比較的容易。	・経済理論的裏付けが希薄。 ・適切な代替財が想定できない場合は評価できない。

出典：河川に係る環境整備の経済評価の手引き【本編】

費用便益比分析

【CVM(仮想市場法)】

CVMによる費用対効果分析では、便益のおよぶ範囲を対象に行ったアンケート調査を基に、対価として支払っても良い金額(WTP:支払意思額)を求め、支払意思額と調査範囲内の世帯数との積により便益を算出する



・アンケート調査の概要

	項 目	設 定 内 容
アンケート票の作成	支払い形態	・河川環境に関する便益推計で多く用いられる負担金を採用
	支払い方法	・回答者が月給などの月額換算される家計の項目と比較し易い月払いと、年収など年額換算される項目で比較し易い年払いの両方を記載
	支払い意思額の設問方法	・分析に必要なサンプル数が相対的に少なく済むこと、多回答方式に比べ、高い提示額での賛成率が低い傾向にあることから多段階二項選択方式を採用
	支払い意思額の判断理由	・設問と回答の意図の相違によるバイアスを排除するため、負担金に賛同する、又は賛同しないと判断した理由を問う目的とした設問を設定

【算出説明書】

費用便益比の算定根拠		
便益	評価手法	CVM(H22年6月にアンケート実施)
	便益計測期間	H26～H75(事業完了から50年)
	総便益	・年平均便益額:41.595百万円(=255円/月・世帯×12ヶ月×13,593世帯)
		・残存価値なし
		○総便益=Σ単年度便益額/(1+0.04) ⁿ =794.356百万円
	評価範囲 (評価範囲図)	・便益範囲:本事業では、姫川の流域であり、当地区の利用者の居住範囲と想定される半径10km圏内をアンケート調査範囲及び便益集計範囲の対象とした
		・世帯数:13,593世帯(糸魚川市の整備箇所より半径10km圏内の地区)
		・配布回収方法:郵送
		・アンケート票数:1,300票配布、回収数581票、有効回答数302票
		・WTP:255円/月・世帯
費用	建設費	451.708百万円 ※デフレーターを考慮した実質価格 (国:419.633百万円(H19～H24)、糸魚川市32.075百万円(H21～H25))
	維持管理費	25.500百万円 ※デフレーターを考慮した実質価格 (堤防および公園整備箇所の除草費用等を積上げ)
	総費用	○総費用C=建設費+Σ年間維持管理費/(1+0.04) ⁿ =497.991百万円
費用便益比(B/C)		1.6
その他留意事項等		

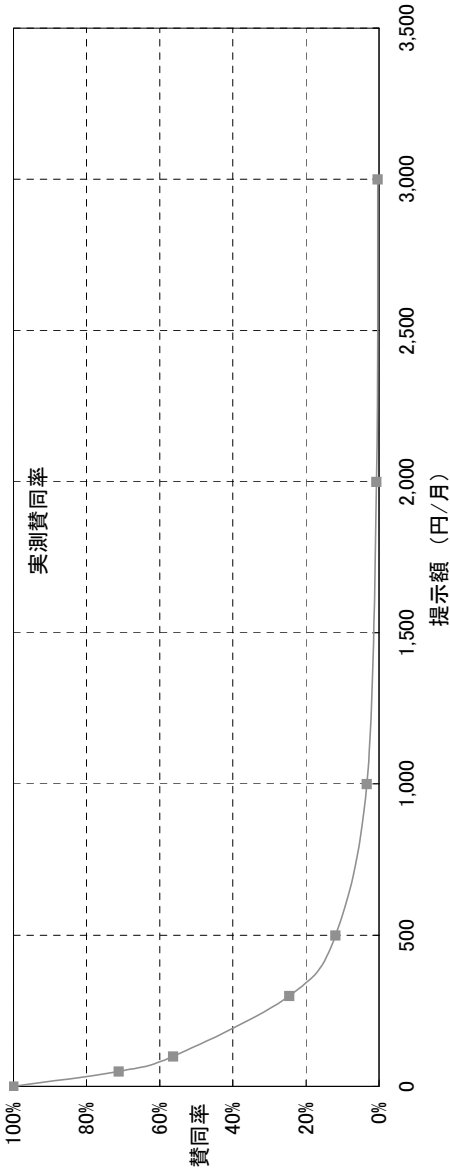
【WTP様式】姫川水系姫川 寺島地区水辺整備 支払い意思額の算定

判別No.	月当たり	該当者数	累積該当者数	T (円)	実測費同率	ノンパラメトリック 実測費同率
1	10円(0～50円未満)	87	302	0	1	42.79801325
2	50円(50～100円未満)	45	215	50	0.711192053	31.87086093
3	100円(100～300円未満)	96	170	100	0.562913907	80.79470199
4	300円(300～500円未満)	38	74	300	0.245033113	36.42384106
5	500円(500～1000円未満)	26	36	500	0.119205298	38.0794702
6	1,000円(1000～2000円未満)	8	10	1,000	0.033112583	19.86754967
7	2,000円(2000～3000円未満)	1	2	2,000	0.006622517	4.966887417
8	3,000円(3000円以上)	1	1	3,000	0.003311258	254.8

全世帯数	13,593
系魚川市(事業箇所から10km圏内)	13,593
H22.4系魚川市住民基本台帳	

総回答数	581
有効回答数	302
有効回答率	52%

実測費同率曲線	平均 WTP(円/月/世帯)
	255



姫川周辺の環境整備に関するアンケート(回答用紙)

<この回答用紙にご記入の上、返信用封筒に入れてご投函ください。>

まず、同封した姫川周辺の環境整備のあらましを記載した「説明資料」をご覧ください。「説明資料」をご覧いただいた後に、下記の質問に回答ください。

問 1 あなたは、姫川周辺（寺島地区）が説明資料に示したような状況であることをご存知でしたか。当てはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。

- 1) そのような状況であると知っていた
- 2) 姫川周辺のことは知っていたが、そのような状況であるとは知らなかった
- 3) よく知らなかった

問 2 あなたは現在、姫川周辺（寺島地区）をどのくらい訪れていますか。 枠のあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。 枠には概ねの回数を記入して下さい。

- 1) 年 2) 月 3) 週
- 4) 1年に1回未満（または行ったことがない）

に 回くらい

問 3 あなたのお宅から姫川周辺（寺島地区）までの所要時間はおよそどのくらいですか。 枠のあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。 枠には分単位で概ねの時間を記入して下さい。

姫川周辺(寺島地区)まで

- 1) 車 2) 電車
- 3) 自転車 4) 徒歩

で 分くらい

問 4 あなたはこの事業が行われた場合、姫川周辺（寺島地区）をどのくらい訪れると思いますか。 枠のあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。 枠には概ねの回数を記入して下さい。

- 1) 年 2) 月 3) 週
- 4) 1年に1回未満（または行かない）

に 回くらい

【重要】 ここからは 仮の質問 です。説明をよくお読みになった上でお答え下さい。

実際には、このような事業は税金によって実施されていますが、ここでは事業の効果を金額に置きかえて評価するために、仮に事業が税金ではなく、各世帯から負担金を集めて行われるような仕組みがあったとしたら、という状況を想像してください。
(これはあくまでも事業の効果を評価するためのこのアンケート上での仮定であり、実際にこのような仕組みが考えられているわけではありません。)

【状況 A: 事業を実施しない場合】

- ・説明資料の事業が実施されず、河川敷や河岸へ近づくにくく、住民等が水辺に親しむことが難しい状況です。
- ・あなたの世帯の負担金はありません。

【状況 B: 事業を実施する場合】

- ・説明資料の事業が実施され、河川敷や河岸へ近づくやすくなり、利用がしやすくなります。
- ・あなたの世帯からの負担金が必要です(今の地域にお住まいの間、負担する必要があるとします)。

問 5 次の(1)～(7)に、状況 B の負担金の額を具体的に示しますので、あなたはそれぞれについて、状況 A と状況 B のどちらが望ましいと思うかを考え、望ましいと思う方の番号を○で囲んで下さい。なお、負担金はこの地域にお住まいの間、負担していただくこととなり、この分だけあなたの世帯で使うことのできるお金が減ることを、じゅうぶん念頭においてお答え下さい。また、負担金は説明資料の事業の実施と維持管理のためにのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないとします。

(1) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 50 円 (年 600 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(2) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 100 円 (年 1,200 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(3) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 300 円 (年 3,600 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(4) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 500 円 (年 6,000 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(5) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 1,000 円 (年 12,000 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(6) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 2,000 円 (年間あたり 24,000 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

(7) 状況 B の負担金が世帯あたり 毎月 3,000 円 (年間あたり 36,000 円) の場合

1. 支払わない(状況 A がよい) 2. 支払う(状況 B がよい)

問 6 問 5（１）で「支払わない（状況 A がよい）」とお答えになった方にお伺いします。
その理由は何ですか。あてはまるものを 1 つ選び、番号を○で囲んで下さい。
その他の場合、（ ）の中に具体的にお書き下さい。

- 1) 事業が行われた方がよいと思うが、毎月 50 円も支払う価値はないと思うから
- 2) たとえ支払いがなくても、この事業を行わない方がよいと思うから
- 3) 世帯から負担金を集めるという仕組みに反対だから
- 4) これだけの情報では判断できない
- 5) その他（ ）

問 7 問 5（１）で「支払う（状況 B がよい）」とお答えになった方にお伺いします。
その理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選び、番号を○で囲んで下さい。
その他の場合、（ ）の中に具体的にお書き下さい。

- 1) 河川敷一帯が利用しやすくなるので
- 2) 桜つつみ等の整備により景観がよくなるので
- 3) 洪水の心配がなくなるから
- 4) 自分や家族にとって価値はないが、他の世帯も支払うのであれば仕方がないから
- 5) その他（ ）

以上で仮の質問 は終わります。

問 8 あなたの性別、年齢等をお尋ねします。

(1) あなたの性別についてあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。

1) 男性	2) 女性
-------	-------

(2) あなたの年齢についてあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。

1) 10代	2) 20代	3) 30代
4) 40代	5) 50代	6) 60代以上

(3) あなたのご住所の郵便番号をご記入ください。

			—				
--	--	--	---	--	--	--	--

(4) あなたの世帯で主な収入を得ておられる方のご職業は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。

1) 自営	2) 給与所得者（会社員、公務員等）
3) 会社・団体役員	4) パート・アルバイト
5) 年金生活者	6) 学生
7) その他（	）

(5) あなたの世帯は今お住まいの地域に今後どれくらいお住まいになるとお考えですか。

あてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んで下さい。

1) 4年以下	2) 5～9年	3) 10～14年
4) 15～19年	5) 20～24年	6) 25～29年
7) 30年以上（特に移転することは考えていない）		

姫川周辺の環境整備に関するアンケート調査 ～寺島地区の事業について～

説明資料

事業のあらまし

①目的

姫川周辺の環境整備は、糸魚川ジオパークと連携して市民の憩いの場や癒しの場を創出することを目的とし、姫川下流部の寺島地区において、国土交通省と糸魚川市が協働で実施する事業です。

②事業の概要

- すでに、河川敷には市民運動広場の整備が完了し、また、川沿いには桜づつみや公園（姫川さくら公園と奴奈川公園）の整備が完了しています。
- 新たに、市民運動広場と石灰石輸送橋の間において、整備済みの市民運動広場や姫川さくら公園及び奴奈川公園と一体となった姫川の水辺環境整備を行います。

③事業の内容

姫川の水辺環境整備（計画）

- 緩傾斜堤防（勾配の緩やかな堤防）
- 桜づつみ ○情報板 ○幅の広い階段
- 河川敷の管理用通路 ○広場
- 水防工法や石の標本等の展示物

既に周辺にある公園

- A.市民運動広場
 - 緩傾斜堤防 ○幅の広い階段 ○グラウンド
- B.姫川さくら公園
 - 桜づつみ ○ベンチ
- C.奴奈川公園
 - あずまや ○ベンチ ○遊歩道 ○広場 ○トイレ

位置図

整備により期待される効果

- ・緩やかな堤防と階段により、河川敷への行き来がしやすくなります。
- ・河川敷が整地され、遊びや休憩の場所になるとともに、運動やイベントの利用がしやすくなります。
- ・舗装された管理用通路により、河川敷を散策しやすくなり、水辺にも近づきやすくなります。
- ・桜並木を快適に散策できるようになり、花見も楽しむことができます。
- ・川沿いの公園で休憩や遊びができるようになります。
- ・姫川や糸魚川ジオパークのことを学ぶことができ、子供たちの環境・体験学習の場にもなります。

堤防が緩やかになると・・・

整備前（現状）

整備後のイメージ

堤防が急で河川敷に行きにくい状態（整備前）から、緩やかな堤防と階段になることで河川敷に降りやすくなります（整備後）。

河川敷が整地されると・・・

整備前（現状）

整備後のイメージ

足元がでこぼこした状態（整備前）から、河川敷が整地され、管理用通路も通り、河川敷を利用しやすくなります（整備後）。